

# 「高音質放送の舞台に真打登場。専用チューナーの 新型ハイエンド・モデル、降臨する」

■鈴木裕×村井裕弥

“月刊ステレオの音”が  
楽しめるラジオ  
**集合!**  
ミュージックバード  
の広場へ



「高音質で音楽専門」の衛星デジタルラジオ・ミュージックバードにおいて、まさに真打の登場か!? 専用チューナーのハイエンド新型モデルが、この秋ついにリリースとなる。その実力チェックのために、本誌筆者の鈴木裕と村井裕弥が試聴室に集結! さらにはミュージックバードが、時期を同じくしてなんと24ビット放送をスタートするという情報もキャッチ。いよいよハイレゾリューションな音楽放送が目の前に出現する、実りの秋が到来!



## 専用チューナー・ハイエンドモデル ガチで新旧聴き比べ!

〈その1〉  
48 k Hz / 16 bit 編

**村井** 今日はミュージックバードのチューナーの比較試聴ということで、鈴木さんにもお越しいただいて話を伺う運びとなりました。

**鈴木** よろしくお願ひします!

**村井** 今回のテーマは「新旧ハイエンド機の聴き比べ」ということで、この秋に発売される新しいハイエンド・チューナー

Conclusion CT100CS (以下、C・T100CS) と、現行モデルのハイエンド機 Conclusion CT1CS (以下C・T1CS) を徹底比較してしまおう、と。

さっそくアナログ接続で聴き比べてみましたが、一聴してみても、いかがでしたか?

**鈴木** アナログ出力を聴いたということで、チューナー部とD/Aコンバーター部、さらにアナログ出力のアンプ部の方向性という複数の要素が絡んでいるとは思いますが、正常進化をしているなど感じました。同じ

48 k Hz / 16ビットの実際の放送を聴いた比較ですが、現行モデルのC・T1CSは、今度発売されるC・T100CSに比べ、音場感の面でしっとりしていないというか、コンサートホールで言えば、ステージの床の面が見えてこない感じがありました。音の重心が高くて、中域の下あたりから低域にかけてのフォーカスが甘くなっていた印象です。それに対して新モデルは、全体的に音が落ち着いてはしゃいだ感じがなくなり、中低域のフォーカスがしっかりしていました。

**村井** 鈴木さんとはこれまでもミドルレンジ、エントリーモデルのチューナーの試聴を一緒にやってきましたが、エントリークラ

スから順番に聴いてくると、ハイエンドクラスの現行モデルC・T1CSは、他とは別格の音世界を創り出していて、聴くたびに惚れ惚れしていました。例えば自宅でC・T1CSを試聴した後に、いつも自宅で使っているチューナーに戻すと、何とというか、音の違いにガツカリしてしまい、しばらくミュージックバードを聴く気にならなくなるくらい優れたチューナーでした。でも今回新モデルを聴いて、C・T1CSが大きな差を付けられてしまった。これはもうびつくりというか、またガツカリというか(笑)。

**鈴木** オーディオって比較すると残酷な結果が待っていたりしますよね。新モデルやより良い製品と比較試聴をしてみると、

元の機器に対して欠落したところを見出してしまおうという。

**村井** 10月から始まる24ビット放送のための新モデルなんですが、16ビットの放送と比較聴してもかなりの差が出るというのは驚きです。個人的には現行モデルの音は、ある意味、自宅でCDをかけるより心地よい音と感じていました。例えるなら、同じ食材を使いながら絶妙な出汁と合わせて高級料理に仕上げた感でしょうか。それが物足りなく感じるくらい音の新モデルのC-T100CSは実現しているんですね。

### 〈その2〉

#### アナログ・96kHzアップコンバート編

(比較聴後)

**鈴木** 個人的には、両機ともにエコー成分が増えて、位相ずれしているような音が聴こえ、実体感が薄れた印象です。それでも



ハイエンドモデルのチューナーの表現力に耳を凝らすべく、聴き比べ試聴は本誌試聴室で敢行。屋外に一時的にアンテナを立てて放送を受信、試聴室内までケーブルをひいてチューナーに接続する。コントロールアンプにアキュフェーズC-3850、パワーアンプに同M-6200、スピーカーにフォステクスG2000aを使用。デジタル接続時には、アキュフェーズのD/AコンバーターDC-950を使用している。

試聴時の曲は「大谷康子 (Vn)、イタマル・ゴラン (P) / ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第5番 長調 Op.24 (春)」、  
「福田進一 (g) / 『詩的ワルツ集』よりアルペニス: 朱色の塔、  
グラナダ、ソルツィーゴ」、「フランソワ・クーブラン: クラヴサン曲集第2巻第6組曲より『怒わずらい』『鳥の囁り』ほか



#### ●ミュージックバード専用チューナー Conclusion C-T100CS

オープン価格 (参考価格¥198,000)

先代C-T1CS発売から4年を経て、11月1日に登場となる高音質志向ハイエンド・チューナー。NECグループ製プリ・メインアンプA-10シリーズにも採用された、補充電コンデンサの働きにより電源コンデンサの充電電流の変動を抑える「リザーブ電源回路」を採用。電流変動を抑え、かつノイズのない安定した電圧の供給が図られている。フロントパネルはアルミ削り出しに裂地加工を採用。大きさはConclusion C-T1CSと同サイズ (430W×90H×340D mm) ※機器に関する問い合わせ先: 港北ネットワークサービス ☎045-507-3091



アナログ出力は2系統 (RCA) を装備。そしてデジタル系は出力3系統 (同軸×1、TOS×2) に加え、入力1系統 (同軸) を備える。リアパネル側のスイッチを切り替えることで、D/Aコンバーターとしても機能する



リアパネルでのスイッチ操作により96kHzへのアップサンプリングを行なう。また外部クロック入力端子を備えており、12.288MHz出力のある機器との接続が可能

新モデルの方は変換精度が高いせいか、位相ずれが軽減され、中低域のフォーカスの正しさが出ているので、よりまともには聴こえました。

**村井** 自宅やイベント会場で何度か比較聴聴してしまっていて、そのときは「効果あり」と感じていたんですが、今回はたしかに96kHzのメリットがあまり出ていないのかなといった印象です。もちろん曲との相性とかもあるとは思いますが、現行モデルの音でいえば、こんなガサツな音だったのかなど。

**鈴木** そうですね。

**村井** ただ、現行モデルではベタな一色塗りのイメージだったホールトーンが、ちゃんとグラデーションがついた印象になったので

100%な音ではないけれど、ここでも新モデルの方が上回ったというところでしようか。

**鈴木** 楽曲との相性も強い部分です。

**村井** それでは次はD/Aコンバーターを用意して、デジタル出力の音を聴き比べてみましょう。

### 〈その3〉

#### デジタル・48kHz / 16bit編

(比較聴後)

**村井** この企画って、チューナーの聴き比

べなんです。D/Aの威力がすごいですが、元々ミュージックバードの最上級機種はDACなしでも使えるというのが売りでしたが、アキュフェーズDC-950のようにクオリティの高いDACを使うと、その潜在能力が最大限に発揮される印象です。  
**鈴木** 最高品質のDACですからね。新旧モデルの比較でいえば、圧倒的な差が出ました。解像度であるとか音のほぐれ方とか、48kHz / 16ビットとは思えない音です。

●鈴木 裕・出演番組  
『オーディオって音楽だ!』  
THE AUDIO 124ch  
毎週木曜 9:00 ~ 10:00  
(再放送)  
毎週木曜 20:00 ~ 21:00  
(アーカイブ放送)  
毎週木曜 10 ~ 11時、同21 ~ 22時

●村井裕弥・出演番組  
『これだ! オーディオ術~お宝盤徹底リサーチ~』  
THE AUDIO 124ch  
毎週水曜 9 ~ 10時  
(再放送)  
毎週水曜 20 ~ 21時  
(アーカイブ放送)  
毎週水曜 10 ~ 11時、同21 ~ 22時

THE CLASSIC 121ch  
毎週日曜 0 ~ 1時



最新の音楽、上質な音楽が  
暮らしに溶け込む。  
衛星デジタル音楽放送の  
ミュージックバードです。

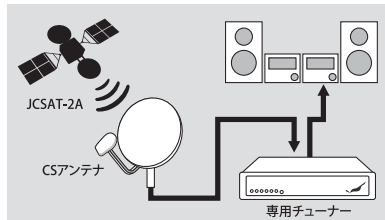


## MUSIC BIRDとは

- 48kHz 16bitの高音質でお送りする、衛星デジタル音楽放送です。
- クラシック、ジャズをはじめ、J-POP、洋楽、ヒーリングなど、あらゆる音楽ジャンルの専門チャンネルがズラリ。
- クラシックなら毎月100枚、ジャズ、J-POP、演歌なら毎週、話題の新譜をいち早く聴くことができます。
- 放送曲目を事前にチェックできる、充実のウェブサイト。冊子のソングリストも毎月発行しています。
- 聴取料金は50チャンネルパック2,000円/月(税別)から。

## MUSIC BIRDってどうやって聴くの?

受信は専用チューナー & アンテナを設置して、お手持ちのオーディオ機器につなげばOK。直接スピーカーにつなぐこともできます。



※晴天時の午前10時~11時にベランダなどから南南東方向に太陽が見通せればアンテナ設置が可能です。  
※日本全国どこからでもお聴きいただけます。

## レンタルもOK! チューナー & アンテナ

ミュージックバードでは、スタンダードモデルからハイエンドユーザー向けの高音質モデルまで、多彩な専用チューナーをご用意。お近くの電気店、オーディオショップでご購入いただけるほか、レンタル可能機種もございます。



お近くの販売店(※)で、チューナーをご試聴いただけます。当社ウェブサイトをご覧ください。下記カスタマーセンターにご連絡ください。  
※販売店により、展示チューナーが異なります。

お問い合わせ・資料のご請求、  
お近くのミュージックバード販売店のご案内は

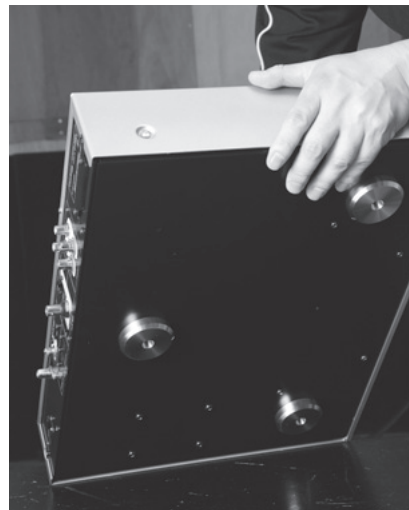
ミュージックバード カスタマーセンター  
TEL 03-3221-9000

<平日・日・祝日> 10:00~12:00、13:00~18:00  
(※土曜休業)

<http://musicbird.jp>

村井 本当にそうですね。新モデルは聴こえ方がまったく違う。まさに歴然の差で、ヘタをしたら楽器そのものが違うのかと思うくらいです。音ひとつひとつがふくよかで、しかも輪郭がボケないというところで圧倒的な差をつけましたね。

鈴木 音の方向性としてもアキユフェーズのDACとの相性は良かったです。



脚部は先代と同様、真鍮削り出しの三点支持式を採用

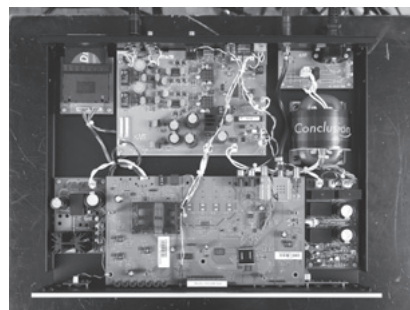
## 〈その4〉

## デジタル・96kHzアップコンバート編

(比較試聴後)

村井 アナログ接続ではあまりいい印象ではなかった96kHzアップコンバートのデジタル仕様でしたが、いかがでしょうか?

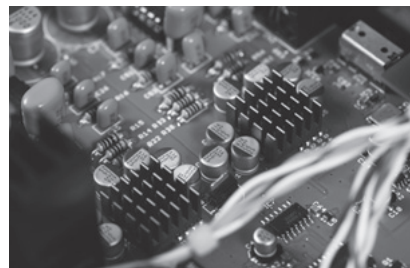
鈴木 今回はピアノソロを聴いたのですが、



C-T1CS(上写真)とC-T100CS(下写真)の内部の様子。チューナー回路電源用とオーディオ回路電源用それぞれのRコアトランスを新設計し、さらにオーディオ回路は基本となる抵抗、コンデンサー類が一新されている

先ほどとは違い印象は良かったです。ガサツな感じはなく、新モデルのほうは実体の音とエコー成分の関係性が正しいまま雰囲気も良くなっていると思います。ただ、良くなった分ピアノの立ち上がりに16ビットの限界が見えてきたようにも感じました。

村井 同じ96kHzアップコンバートでも、さつきは駄目で、今回は良かった。それが



C-T100CSのDAC部にはウォルフソン製WM8741GEDSをデュアルで採用。サンプリングレートコンバーターにはシーラスロジック社CS8420-CSZ、オペアンプにはT1製OPA2604APとリニアテクノロジー製LT11116をそれぞれ採用する。その周辺のコンデンサーにはノイズに強く広帯域とされるパナソニック製導電性高分子アルミ個体電解コンデンサー、抵抗にはリンクマン性金属皮膜抵抗を採用している

かかっているCDとの相性なのか、デジタル出力を優秀なDACにつなぐとデメリットが少なくなるのはわからないうのですが、このチューナーをお買い求めになったら、一度は試していただきたいですね。



「ミュージックバードでは8月に2回、大きな音質改善がありました」

鈴木 村井さんはミュージックバードについて詳しいですよ。オーディオシーブンのこのタイミングで、何かすごい情報とがありますか。

村井 じつは8月に2回、大きな音質改善がありました。

鈴木 やっぱりそうですか！ 漠然とですが、何か音が良くなったなあとは感じていました。一体どんな変更があったんですか？

村井 まずエンコーダーを新しいものに変えて、色々なパラメータを駆使して音をチューニングしたそうなんです。普通にCDをかけている番組にもかかわらず、圧倒的な差が生まれました。さらに8月23日には電波を発信する衛星が変わりました。これ

については鈴木さんもすでに実感済みとか。鈴木 そうなんです。自宅のシステムのプリアンプにはインジケーターが付いていて、常に入力レベルを把握しているんですが、レベルが5〜6dBくらい上がっているというのを確認していました。

村井 自分の友人でアンテナからの入力レベルにとってもこだわる人間がいるんですが、明らかにレベルが上がっていると大騒ぎをしていましたね。自分ではそんなに違いは出ないのではと高をくくっていました。これも録音を聴き比べたところ明らかに違っていました。

鈴木 衛星でそんなに変わるものなんですかね？

ミュージックバード通信

★この秋オススメ! 24bit 放送の番組

THE CLASSIC (121ch)

世界最高峰のクラシック・ライブをオーストリアからお届け

「WORLD LIVE SELECTION」

毎週土曜・日曜 16:00 ~ 18:00

●世界最高峰のクラシックコンサートを厳選して毎週2回放送。音源はオーストリア放送協会提供。11月は3つの音楽祭から注目のピアニスト5人によるリサイタルを。また、ネゼ=セガン指揮ウィーン・フィルのブルックナー9番もお聴き逃しなく。

THE CLASSIC (121ch)

ハイレゾ収録で聴く極上の室内楽

「トツパンホール・トライアングル」

毎月最終日曜 16:00 ~ 18:00

●“室内楽の殿堂”の誉れ高いトツパンホールの主催公演をハイレゾ収録(※)してオンエア。10月31日の放送は、実力派チェロ奏者、ジャン=ギアーン・ケラスによる「ゴダイノ無伴奏チェロ・ソナタ」ほか。

(※放送では48kHz24bitにコンバートされます)

THE AUDIO (124ch)

最良の音楽を最高の音で。話題のハイレゾ音源をお届け!

「ハイレゾ新譜 by e-onkyo music」

毎週土曜 15:00 ~ 17:00

ハイレゾ音源配信サイト「e-onkyo music」で発売された新着音源を、ジャンルを超えてご紹介。

【イベントのお知らせ】

「24bit 放送&新型チューナーを体験しよう!」

この秋に開催される「JAS・音のサロン&カンファレンス」で試聴会を行います。C-T10CSと新型チューナーC-T100CSの聴き比べ、24bit 放送と16bit 放送の聴き比べ等。是非ご来場ください。

日時: 10月29日(土) 13:30 ~ 15:00、30日(日)

10:00 ~ 11:30

会場: 秋葉原フジソフトビル 5F フロア A

出演: 村井裕弥、炭山アキラ

緊急試聴! 24bit 放送の世界をレポート ●村井裕弥

専用パラボラアンテナ

ナからチューナーに送られる電流(音楽信号)と同じものをパソコンでシミュレートし、新ハイエンドチューナーC-T100CSで受けて再生。ジャンルの異なるサンプルを5曲用意し、まず16bit 放送の音を聴き、次に24bit 放送の音を聴いた。局のスタッフが2名同席したが、「16bit 放送と24bit 放送は、こんなにも音が違うのか!？」と誰もがびっくり。「16bit で気になったデジタル臭さが、24bit ではほとんど感じられない」「聞こえなかった演奏者の鼻歌が聞こえてきた」「音量不足だ、迫力不足だと感じていたのに、躍動感アップで、不足を感じなくなった」「ピアノの表現力、ベースの音圧、低音のクオリティなどまったくの別物」「楽器をより高価なものに持ち替えただけでなく、奏者たちの技量まで上がって聞こえる」「とにかく同じ演奏を捉えた録音とは思えない」等々…。16bit と24bit の違い(音質傾向)は5曲ともほぼ同じ。音楽ジャンルによる差は認められなかった。

村井 デジタルケーブルを変えたら音が変わるのか?といった議論と同じですね。理論的には変わらないはずなのに、実際の音は明らかに変わるといふ類の。

鈴木 パラボラアンテナを大きくしたら、音が良くなった。に近い感じですね。

24ビット放送がスタート!

高音質化の追求は止まらない

村井 まだまだありますよ。現在ミュージックバードは48kHz/16ビットでの放送なんです。10月から一部の番組がなんと24ビット放送になるんです。これも比較試聴したのですが、圧倒的な差がありました。

鈴木 まさか、もうすでにこれも比較試聴済みとか?

鈴木 昨年から試験放送をしていましたよね。やはり解像度は高くなるし、立体感も格段に違いますから、これはうれしいうえですね。

村井 ええ、実はそうなんです。256kbps から320kbps の変化は実に大きくて、この音が自宅に居ながらにして楽しめるなんて夢のような話です。

村井 まずは高音質を謳っている番組からということで、10月1日から「ハイレゾ新

報」を展開から目が離せません。